

一地域における小児期からの成人病(生活習慣病) 予防に関するコホート調査研究
 児童・生徒の成人病(生活習慣病) 予防検診結果 (コホート95の成績)
 (小児期からの成人病予防に関する研究)

柴田 隆
 順天堂大学医学部付属順天堂伊豆長岡病院

A. 研究目的

小児期の成人病(生活習慣病) 検診結果を基礎的資料として保存し、その後の各種疾病特に高血圧、心筋梗塞、脳出血、糖尿病などの成人病(生活習慣病) 発症との関連性を検討する。異常値を示した児童生徒には生活・栄養指導を行い、より健康的なライフスタイルを確立させて将来の成人病(生活習慣病) 発症の予防に役立てるとともに小児期から自己健康管理に対してより深い関心ををもたせる。短期的な評価としては、われわれの行っている指導の是非を判断するための指標とする。

B. 研究方法

小学校4年と中学校1年の成人病(生活習慣病) 予防検診で得られた総コレステロール値、HDLコレステロール値、AI値をコホートを検討して調査研究成績とした。

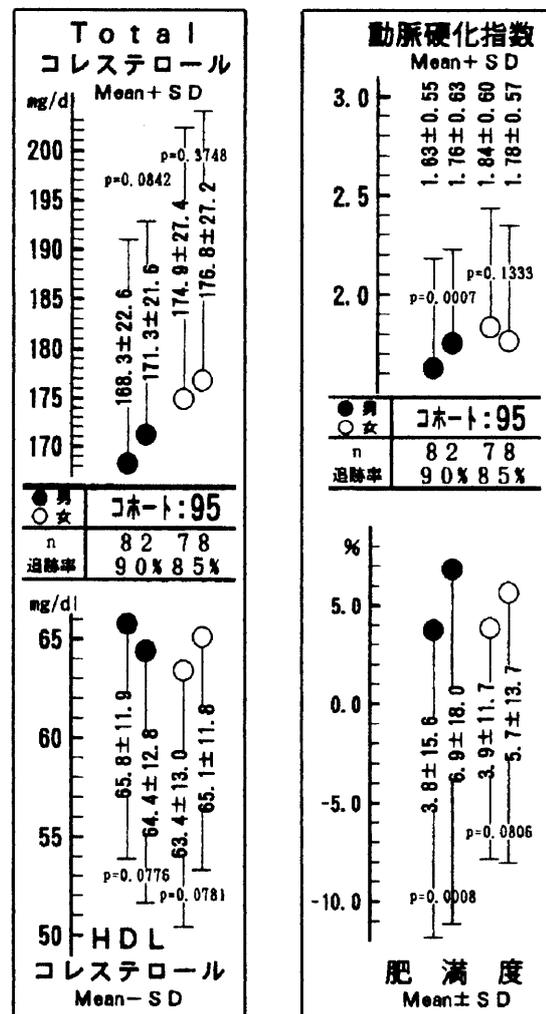
C. 調査研究結果

右側の図に示すようである。追跡率は男90%、女85%で昨年度までの成績と大きな差はみられなかった。検診結果では、昨年度までと異なり、総コレステロール値が、男女とも中学生徒で高値となった。HDLコレステロール値は女では上昇をみたが、男は低値を示し、その結果、AI値が男で高くなり、女で改善された。

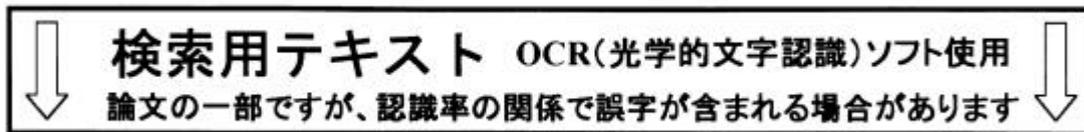
D. 考案

小児期からの成人病(生活習慣病) 予防に取り組んできて、昨年度までの92、93、94、のコホートグループの結果では、総コレステロール値、HDLコレステロール値、AI値の結果は、一部のグループを除き改善されていたが、本年度のコホート95では総コレステロール値の改善がみられなかった。HDLコレステロール値は女では改善をみていたが、男では改善がみられず逆に減少して

いた。この結果AI値でも男のグループで上昇をみた。肥満度については、肥満と過体重を区別した成績を得るように改善する必要を昨年度に指摘しているが、従来と同様の方法で検討した本年度の成績からは肥満度が進んでいた。特に中学男で有意に進行がみられていたことは、われわれの取り組みの再検討を必要とする。これらの児童生徒からの成人病(生活習慣病) 発症頻度がどのようになるかは、今後長期間のコホート調査研究を継続しなければ結論を得られない。そのための基礎資料をととのえたものとして評価し得る研究成果と考えたい。



E. 結語 昨年度までにつづいて本年度に得られたコホート95の成績を報告した。その結果、今後の取り組みを再検討する必要性がみられた。これらのコホート調査研究結果を成人病(生活習慣病) 予防に役立つ資料として保存する。



A, 研究目的

小児期の成人病(生活習慣病)検診結果を基礎的資料として保存し、その後の各種疾病特に高血圧、心筋梗塞、脳出血、糖尿病などの成人病(生活習慣病)発症との関連性を検討する。異常値を示した児童生徒には生活・栄養指導を行い、より健康的なライフスタイルを確立させて将来の成人病(生活習慣病)発症の予防に役立てるとともに小児期から自己健康管理に対してより深い関心をもたせる。短期的な評価としては、われわれの行っている指導の是非を判断するための指標とする。